

特262

36

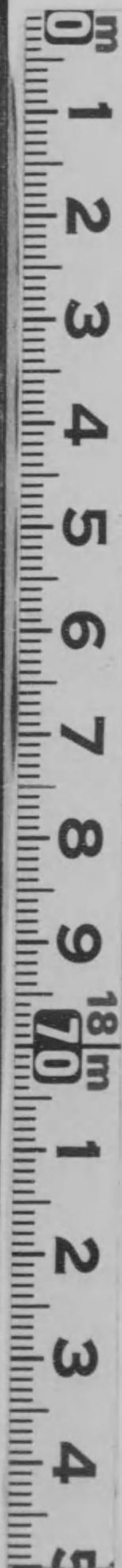
在真

家言

萬まん

徳とく

集しゆ



始





不淨ふじょうの祓はらい

しゆたりぐしゆまりそわか

三さん禮らい

をんさらば、たたぎやた、はんまんなのう  
まやろみ



燒香供養

願我身淨如香爐

念々焚燒戒定香

願我心如智慧火

供養十方三世佛

開經偈

無上甚深微妙法

百千万劫難遭遇

我今見聞得受持

願解如來眞實義

此の所御本尊大師太神宮鎮守惣じて日本大

小の神祇今上皇帝寶祚延長國體鞏固萬

民快樂現世安穩父母師長六親眷屬乃至法界

平等利益



先懺悔文

我昔所造諸惡業

皆由無始貪瞋癡

從身語意之所生

一切我今皆懺悔

○三 歸

弟子某甲(姓名)盡未來際

歸依佛 歸依法 歸依僧

○三 竟

弟子某甲(姓名)盡未來際

歸依佛竟 歸依法竟 歸依僧竟

○十善戒



弟<sup>で</sup>子<sup>し</sup>某<sup>む</sup> 甲<sup>かう</sup> (姓名ヲ加) 盡<sup>どん</sup> 未<sup>み</sup> 來<sup>らい</sup> 際<sup>さい</sup>  
 不<sup>ふ</sup> 殺<sup>せつ</sup> 生<sup>しやう</sup> 不<sup>ふ</sup> 偷<sup>ちゆう</sup> 盜<sup>たう</sup> 不<sup>ふ</sup> 邪<sup>じや</sup> 淫<sup>いん</sup> 不<sup>ふ</sup> 妄<sup>まう</sup> 語<sup>ご</sup>  
 不<sup>ふ</sup> 綺<sup>き</sup> 語<sup>ご</sup> 不<sup>ふ</sup> 惡<sup>あく</sup> 口<sup>く</sup> 不<sup>ふ</sup> 兩<sup>りやう</sup> 舌<sup>せつ</sup> 不<sup>ふ</sup> 慳<sup>けん</sup> 貪<sup>こん</sup>  
 不<sup>ふ</sup> 瞋<sup>しん</sup> 恚<sup>い</sup> 不<sup>ふ</sup> 邪<sup>じや</sup> 見<sup>けん</sup>

○發<sup>ほつ</sup> 菩<sup>ぼ</sup> 提<sup>だい</sup> 心<sup>しん</sup> 眞<sup>しん</sup> 言<sup>ごん</sup>

おんぼうぢしつたほたはたやみ

○三<sup>さん</sup> 摩<sup>ま</sup> 耶<sup>や</sup> 戒<sup>かい</sup> 眞<sup>しん</sup> 言<sup>ごん</sup>

をんさんまやさとばん

○光<sup>くわう</sup> 明<sup>みやう</sup> 眞<sup>しん</sup> 言<sup>ごん</sup>

廿一反或八百反千反

おんあほきやべいろしやなうまかほたら



まにはんどまじんばら。はらばりたやうむ

○南無大師遍照金剛

數同反唱フベシ

○十三佛眞言

不動明王

なうまくさんまんたばざらたん。せんたま

かろしやた。そはたやうんたらたかんまん

釋迦如來

曩莫三曼多沒駄南嚩

文殊菩薩

唵阿羅跋者娜



普賢菩薩

唵三摩耶薩怛鏤

地藏菩薩

唵訶訶訶尾娑摩曳娑婆訶

彌勒菩薩

唵每怛隸野娑嚩賀

藥師如來

唵呼盧呼盧戰馱利摩橙祇莎訶

觀自在菩薩

唵阿嚕力迦娑婆訶



勢せい至し菩ぼ薩さつ

唵おん三さん髯さん索さく娑ぞ婆わ訶か

彌み陀だ如に來よらい

唵おん阿あ蜜み唼り多た帝てい際さい賀か羅ら吽うん

阿あ闍しゆく如に來よらい

唵おん惡あ乞き荔しゆ毘び也や吽うん

大だい日にち如に來よらい

唵おん阿あ尾び羅ら吽うん欠けん縛ば日さ羅ら薩さ怛と鍍ばん

虛こ空くう藏ざう菩ぼ薩さつ

曩なう謨ぼ阿あ迦きや捨しや揭きや羅ら婆ば耶や唵おん阿あ利り迦きや摩ま利り暮ぼ利り娑そ



婆訶わか

○八祖はつそ大師だいし

第 <small>だい</small> 三	第 <small>だい</small> 二	第 <small>だい</small> 一
金剛智三藏 <small>こんがうちさんざう</small>	龍智菩薩 <small>りうちぼさつ</small>	龍猛菩薩 <small>りうみやうぼさつ</small>

第 <small>だい</small> 八	第 <small>だい</small> 七	第 <small>だい</small> 六	第 <small>だい</small> 五	第 <small>だい</small> 四
高祖弘法大師 <small>かうそこうぼうだいし</small>	惠果和尚 <small>けいこわとうやう</small>	一行阿闍利 <small>いちぎやうあせり</small>	不空三藏 <small>ふくうさんざう</small>	善無畏三藏 <small>ぜんむいさんざう</small>



○舍利禮

一心頂禮 萬德圓滿 釋迦如來 眞身舍利

本地法身 法界塔婆 我等禮敬 以我現身

入我我入 佛加持故 我證菩提 以佛神力

利益衆生 發菩提心 修菩薩行 同入圓寂

平等 大智 今將頂禮

○觀音經秘鍵

世尊妙意觀世音 金銀座寶之蓮華者 歷劫不

思議之波立 心得之深顯 弘誓深如海之

船者 此來不傾 還著於本人之劍以



呪詛諸毒藥之病滅。念彼觀音之力於合。  
諸欲害身之敵滅。發大清淨願之瀧水者。  
煩惱妄想之垢雪。我以汝略說之艸木者。  
聞名及見身之成種。心念不空之風吹者。能  
滅諸有苦之雲晴。念念勿生之月明照。推

落大火之雨降者。火坑之火消滅。即從座起之  
金以和光垂迹之利物顯。雲雷鼓掣電  
降雹澍大雨者。皆是觀世音之佛力也。奉唱  
福聚海無量。閻浮檀金之家之內者。皆是法性  
之春。以偈問曰。之華開。我今重問彼之秋之



露者つゆは。世尊妙相具之草木宿事疑無せ そんめうさうぐ の さうもくしゆくすることうたがひなし。生しやう

死之病種種因緣之藥給じ の やまひしゆくいんゑんの くすりをたまふ。慈眼視衆生福じゆかいむ りやう せ こ おうてうらい ねんび くわんおんりき しょぐわん

聚海無量。是故應頂禮。念彼觀音力。諸願トやうじう かいりやうせんぞくきやうによりつりやう

成就。皆令滿足急急如律令。

南無大慈大悲觀世音菩薩種々重罪五逆消滅なむ だいじ だいひ くわんせおん ぼさつしゆくおうざいごぎやくせうめつ

自他平等即身成佛じ だ びやうとうそくしんじやうぶつ

○十句觀音經トつ く くわんおんきやう

觀世音。南無佛。與佛有因。與佛有緣。佛法僧くわんせおん なむ ぶつ よ ぶつう いん よ ぶつう ゑん ぶつばふそう

緣。常樂我淨。朝念觀世音。暮念觀世音。念ゑん トやうらくがトやう ちやうねんくわんせおん ぼ ねんくわんせおん ねん

念從心起。念念不離心。くじうしんぎ ねんくふりしん



前經

仰々般若心經と申奉る御經は天台經七十卷毘沙經六十卷阿含經華嚴經方等般若法華經一切八万余卷の中より撰み出されたる御經なり文字の數は二百と八十余文字にて神

前にては寶の御經佛前にては花の御經まして人間の家の爲には祈念祈禱の御經なれば聲高々に讀上れば上は梵天台釋下は堅牢地神に到まで感應まします事疑いなし謹で讀誦し奉る



○佛說摩訶般若波羅蜜多心經

觀自在菩薩。行深般若波羅蜜多。時照見五  
蘊皆空。度一切苦厄。舍利子。色不異空。空不  
異色。色即是空。空即是色。受想行識。亦復  
如是。舍利子。是諸法空相。不生不滅。不垢不淨

不增不減。是故空中。無色無受想行識。無限  
耳鼻舌身意。無色聲香味觸法。無眼界乃至  
無意識界。無無明亦。無無明盡。乃至無老死  
亦無老死盡。無苦集滅道。無智亦無得。以無  
所得故。菩提薩埵。依般若波羅蜜多故。心無罣礙



無<sup>む</sup>罣<sup>げ</sup>礙<sup>げ</sup>故<sup>こ</sup>無<sup>む</sup>有<sup>う</sup>恐<sup>く</sup>怖<sup>ふ</sup>遠<sup>を</sup>離<sup>ん</sup>一<sup>い</sup>切<sup>つ</sup>轉<sup>さ</sup>倒<sup>い</sup>夢<sup>だ</sup>想<sup>う</sup>究<sup>さ</sup>竟<sup>う</sup>涅<sup>げ</sup>  
槃<sup>は</sup>三<sup>ん</sup>世<sup>さん</sup>諸<sup>しよ</sup>佛<sup>ぶつ</sup>依<sup>よ</sup>般<sup>はん</sup>若<sup>んに</sup>波<sup>は</sup>羅<sup>ら</sup>蜜<sup>みつ</sup>多<sup>た</sup>故<sup>こ</sup>得<sup>とく</sup>阿<sup>あ</sup>耨<sup>くわ</sup>多<sup>た</sup>羅<sup>ら</sup>  
三<sup>さん</sup>藐<sup>みやく</sup>三<sup>さん</sup>菩<sup>ぼ</sup>提<sup>だい</sup>故<sup>こ</sup>知<sup>ち</sup>般<sup>はん</sup>若<sup>んに</sup>波<sup>は</sup>羅<sup>ら</sup>蜜<sup>みつ</sup>多<sup>た</sup>是<sup>せ</sup>大<sup>だい</sup>神<sup>しん</sup>呪<sup>じゆ</sup>  
是<sup>せい</sup>大<sup>だい</sup>明<sup>みやう</sup>呪<sup>しゆ</sup>是<sup>せい</sup>無<sup>む</sup>呪<sup>と</sup>上<sup>しゆ</sup>是<sup>せい</sup>無<sup>む</sup>等<sup>とう</sup>等<sup>とう</sup>呪<sup>しゆ</sup>能<sup>のう</sup>除<sup>ぢ</sup>一<sup>いつ</sup>  
切<sup>さい</sup>苦<sup>いく</sup>眞<sup>しん</sup>實<sup>じつ</sup>不<sup>ふ</sup>虛<sup>こ</sup>故<sup>こ</sup>說<sup>せつ</sup>般<sup>はん</sup>若<sup>んに</sup>波<sup>は</sup>羅<sup>ら</sup>蜜<sup>みつ</sup>多<sup>た</sup>呪<sup>と</sup>即<sup>とく</sup>說<sup>せつ</sup>呪<sup>じゆ</sup>

曰<sup>わつ</sup>。

羯<sup>ぎ</sup>諦<sup>やてい</sup>羯<sup>ぎ</sup>諦<sup>やてい</sup>波<sup>は</sup>羅<sup>ら</sup>羯<sup>ぎ</sup>諦<sup>やてい</sup>波<sup>は</sup>羅<sup>ら</sup>僧<sup>そう</sup>羯<sup>ぎ</sup>諦<sup>やてい</sup>菩<sup>ぼ</sup>提<sup>だい</sup>薩<sup>さつ</sup>婆<sup>は</sup>訶<sup>か</sup>  
般<sup>はん</sup>若<sup>んに</sup>心<sup>しん</sup>經<sup>ぎやう</sup>

○弘<sup>こう</sup>法<sup>ほふ</sup>大<sup>だい</sup>師<sup>し</sup>御<sup>ご</sup>詠<sup>えい</sup>歌<sup>か</sup>

ありがたや高<sup>たか</sup>野<sup>の</sup>の山<sup>やま</sup>の岩<sup>いは</sup>かけに



大師だいしはいまにたはしまします

空海くわかいのこゝろのうちうちに咲さく花はなは

みだより外ほかにしるひとはなし

先祖せんぞ代々だいだい一いつ家け精靈しやうりやう有縁あるむ無縁あるないし乃至ほうかい法界びやうざう平等びやうとう  
利益りやく南無なむ三世さんせ諸菩薩しよぼさつ

阿字あじ十方じつほう三世さんせ佛ぶつ微塵みぢん一切いつさい諸菩薩しよぼさつ乃至ないし八萬はちまん  
諸聖教しよしやうぎやう皆是かいせ毘盧びろ那遮佛しやなぶつ

○大金剛輪陀羅尼だいこんどうりんだらに

なうまく。しつちりやちびきやなん。さらば。  
たたぎやたなん。あん。びらじ。びらじ。まか



しやきやらばり。さたく。おらてらく。  
たらるく。びだまに。さんばむじやに。た  
らまち。しつた。まじりや。たらんそはか

○五大願ごだいぐわん

衆生しゆしやう無邊むへん誓願せいぐわん度ど

福ふく智ち無邊むへん誓願せいぐわん集しう  
法ほふ門もん無邊むへん誓願せいぐわん覺かく  
如によ來らい無邊むへん誓願せいぐわん事じ  
菩ぼ提だい無上むじやう誓願せいぐわん證しやう

○回ゑ向かう



願ぐわん以に此し功く德徳 普ふ及ぎう於お一いつ切さい  
我が等とう與よ衆しゆ生じやう 皆かい共ぐ成じやう佛ぶつ道だう

○高野山御山開かうやさんをんやまびらき

仰そも々く紀き伊いの國くに伊い都と郡ぐん高野山かうやさんは杉さん槇しん八は面ちめんを圍かこみ  
半はん天てん別べつに一いつ界かいをななし天下てんが無む雙そうの名山めいさんなり此この

御山みやまを開ひらき給たまふ事こと往むかし昔かう高祖かうぼ弘法こうぼう大師だいし靈境れいきやうを  
覓もて周あまく天下てんがを廻めぐり給たまふ所ところ大たい唐とうの濱はまより投なげ  
たもふ飛行ひぎやう三さん鈷こ松まつの梢こすゑにとどまり有ある故ゆへ此地このち  
にしくしやうなをんしとて御歲をんとし四し十三じゅうさん歳さいにして  
帝許ていきよを蒙こふむり修禪しゆぜん入定にうぢようの地ちとなし給たまふ高山こうさんの



頂上せつとやうに平たいらなる廣野ひろの有あるを以もつて高野山こうやさんと稱なづく  
其後そのご世々よよの聖帝せいだい高位こうい高宦こうかんの御方をんかた々々かたも運歩うんぼうの  
勞つかれと厭いとひ給たまはず參詣さんけいし給たまふ靈場れいじやうなり登道のぼるみちは  
七路ななぢにして檀場だんじやう四方しやう四隅しぐうに遶めぐる峰みねを内うちの八はち  
葉やうとい、檀場だんじやう奥院おくいんの外ほかに聳そびゆるを外そとの八葉はちやう

と云いふ常つねに内外ないげ八葉はちやうの峰みねの圍かこみたるは恰あたかも  
八葉はちやうの蓮華れんげの形かたちなり檀場だんじやう諸伽藍しよがらん拜禮はいらいの巡路じゆんろ  
は梵書ぼんしやうの阿あの字しの形かたち即すなわち是これ胎藏界たいざうかいの曼荼まんた  
羅らにして花藏世界くわざうせかいを表ひやうす是これより奥院おくいんに至いたる  
間あいだは梵書ぼんしやうの鑊ぼんの字しを踏ふむ是これ金剛界會こんごうかいの曼荼まんた



羅らにして密嚴みつごんの淨刹しやうせつを顯あらわす是阿鑊これあはなりやうだん兩檀まうすと申まうす  
也なりをくのいんいち奥院はしなか一の橋中はしごびやうの橋御廟はしこれの橋是はしこれを俗ぞくに無明むみやう  
の橋はしと云いふ此この橋板はしいた三十七枚まいは金剛界會こんごうかいの  
三十七尊そんに表ひやうす裏面りめんに一々いち／＼其種字そのしゆうトと書しよす故ゆへ  
に犯罪ぼんざいの障さわり有者あるものは是これを渡わたる事ことと得えず長ちやうじや者や

の万燈まんとうひ貧者トヤの一燈いっとう奥院をくのいんの御玉廟たまやに鎮しづまり給たまふ  
高祖こうそ弘法こうぼう大師だいし不思議ふしぎの利益りやくよ世々よに新あらたなり誠まこと  
や信しんあらん人々ひとぐは一度いっどたりとも高野山こうやさんへ叅さん  
詣けいた致いたし現當げんどう二世にせの罪障ざいしやう消滅しょうめつ生極樂しやうらく値過ちくわの  
因緣いんゑんを結むすび給たまふべし



南無大師遍照金剛

○弘法大師和讃

歸命頂禮遍照尊寶龜五年の六月に玉藻歸る  
てふ讚岐瀉屏風が浦に誕生し御歳七ツの其  
時に衆生の爲に身を捨て五の嶽に立雲の立

る誓を頼もしき遂に乃ち延暦の末の年なる  
五月より藤原姓の賀能等と震旦船にのりを  
得てしるしを殘す一本の松の光を世に廣く  
弘め玉へる宗旨をば眞言宗とぞ名づけたる  
眞言宗旨の安心は上根下根の隔てなく凡聖







の花はなを咲さかせんと金口こんくの眞説しんせつ四句しきうの偈げを國字こくじ  
に作つくる短歌みじかうた

いろはにはへとちりぬるを  
わがよたれづつねならむ  
うるのおくやまけふこゑて  
あさきゆめみしゑひもせず

いかなる無智むちの稚子をさなごも習ならふに易やすき筆ふでの跡あとさ  
れども總持そふトの文字もじなれば知しれば知程しるほどい意味み深くか  
し僅わづかに四十七字じにて百事ひやくトを通つうずる便利べんりとも  
思おもへば萬國ばんこく天あめの下御恩したごをんを受うけざる人ひともなし猶なほ



誓の其中に五穀豊熟富み貴き家運長久智  
慧愛敬息災延命且易産殊に見目も浅ましき  
業病難病受し身は八十八の遺跡に寄て利  
益を成し玉ふ悪業深きわれくは繋ぐぬ沖  
の捨小船生死の苦海果もなし誰と便の綱手

繩爰に三地の菩薩あり弘誓の船に櫓械とり  
救済玉へる御慈悲の不思議は世々に新なり

南無大師遍照尊

光明真言和讃

歸命頂禮大灌頂光明真言功德力諸佛菩



薩さつの光明こうめうと二十三ト字じに藏をさめたり唵をんの一字じを  
唱となふれは三世みよの佛ほとけにことごとく香華こうげ燈明とうめう飯をん  
食じきの供養くようの功德くどく具そなはれり阿謨迦あぼきやと唱となる功こう力りき  
には諸佛しよぶつ諸菩薩しよぼさつ諸共しよともに二世にせに求願ぐぐわんを得えせし  
めて衆生しゆじやうを救たすけ玉たまふなり吠嚕灑曩べいろしやのうと唱となふれ

は唱となふる我等われらが其儘そのまに大日如來だいにちによらいの御身をんみにて  
説法せつぽふし玉たまふ姿すがたなり摩訶謨陀羅まかぼだらの大印だいいんは生佛しやうぶつ  
不二ふにと印可いんかにて一切衆生いつさいしゆじやうをことごとく菩提ぼだい  
の道みちにぞ入玉いれたまふ摩尼まにの寶珠ほふじゆの利益りやくにて此世このよ  
を掛けて未來迄みらいまで福壽意ふくじゆいの如ごとくにて大安樂だいはんらくの



身みとぞなる伴拏摩唱はんごまごなふる其人そのひとはいかなる罪つみ  
も消滅せうめつし華はなの臺うてなに招まねかれて心こころの蓮はちすを開ひらくな  
り人じん嚩羅唱ばらごなふる光明くわうめうの無明變むめうへんじて明めうとなり  
數多あまたの我等われらを攝取せつしゆして有緣うゑんの淨土じやうどに安玉やすたまふ  
波羅縛利多耶はらばりたやを唱となふれば萬よろづの願望がんぼう成就じやうじゆして

佛ほとけも我等われらも隔へだてなき神通自在とんづうじざいの身みを得うべし咩うん  
字じと唱となる功力くりきには罪障深ざいしようふかきわれくが造つくりし  
地獄ぢごくも破やぶられて忽たちまち淨土じやうどと成なりぬべし亡者もうじやの  
爲ために呪しゆと誦とゆして土砂どしゃをば加持かじし回向えこうせば極ごく  
重惡じゆうあくのともがらも速得解脱そくとくげだつと説とき玉たまふ眞言しんごん



醍醐だいごの砂教めうけうは餘教よけう超過ちようくわの御法みのりにて無邊むへんの功く  
徳具とくそなわれり説とくともいかで盡つくすべき

南無なむ大師だいし遍照尊へんしょうそん

四國こく八十八ヶ所道開しよみちびらき

至心しんきみよ歸命きみやをへんじよそんほんぢ遍照尊へんしょうそん本地ほつしんるは法身しやな盧舍那佛ぶつ往昔そのかみだい大

悲ひの願ぐわんありて垂跡すいしやくわこう和光わくわうに身みを降くだし我日わがひの本もと

にあとと垂たる父ちちは佐伯さいさきの善通よしみちきやうは卿母あとうは阿刀あとうの

姓うぢにして玉寄たまよりご御前せんと稱しょうすなりある夜よの夢ゆめに

御佛みほとけを胎はらに孕やどすと見玉みたまひて寶龜ほうき五年ねんの甲寅きのゑごら

六月ぐわつ十五ごの寅とらの刻こく誕生たんじようありし靈跡れいせきは讚州さんしゆた多



度の郡なるびやう風が浦の善通寺出家修道  
の其後は父母の菩提を祈らんと誕生ありし  
御殿をば七堂伽藍と爲し玉ひ父の御名の善  
通を寺號となして善通寺誕生院と名付たり  
幼き時の遊びには仙遊が原に出で玉ひ泥の

佛を作りつゝ禮拜供養を成したまふ實に旃  
檀はふたばより薫りゆかしき兒大師御年七  
歳の誓ひには一切衆生を救はんと雲に聳ゆ  
る高峰より千尋の谷へ捨る身を天女降りて  
抱さどめ尊体守護を成しければ釋迦牟尼如



來出現らいしゆつげんし意願成就いがんじやうじゆと告つげたまふ是これを名なにあふ  
出釋迦寺捨身しゆつしやかじ しやしんが嶽だけと稱しょうすなり又彌谷またいやたにに在あり  
しとき巖いわにつく御佛みほとけは金胎兩部こんたいりやうぶの曼荼羅まんだらや  
梵文諸佛諸菩薩ぼんもんしよふつしよぼた手てを突石つくいしもふむ岩いわも平一ひらいち  
面の石めんいしはとけ淨土しやうどの体相顯ていそうあらわすも皆みな是一夜これやの

作さくとかや御年おんどしは二十歳たちに槇尾まきのをの勤操僧都ごんぞうそうづに隨したが  
ひて出家得度しゆつげとくどの式しきをへ了なて名なを空海くうかいと改あらたまふ  
抑々そもく四國しこく八十八はちじゆはつヶ所しよの由來ゆらいいかにと尋たづぬる  
に延歷えんりやく二十三年ねんに大師だいし入唐にうどうましくて眞言しんごん  
秘密ひみつの教法きよほうを惠果阿闍梨けいがあじやりに受うけしより天竺てんじくしゆ鷲



峰ふうの雲くもに入りぬ釋尊遺跡八塔とうの靈地れいちを巡拜トゆんばいな  
し玉たまい吾日わがひの本もとの諸人もろひとに普あまねく結縁けつゑんさせんと  
て八塔はつとうの土つちを持歸もちかへり八ツやつの數かずを十倍ばいし元もとの  
八塔相はつとうあいをへて八十八はつじゅうはちの數かずの砂敷すなしきて伽藍がらんを建こん  
立りゆうし四國こく八十八はつじゅうはちヶ所しよの靈場れいじやうとこそなし玉たまふ

そも巡拜じゆんばいの御姿みすがたは麻あさの衣ころもにあじろ笠背がさせなに荷に  
俵だわらさんね三衣ふろあしなの袋足かぞうり中草履ちゆうそうりをめし玉たまひ首くびにかけた  
る札挾ふたばさみ豎たて六寸すんに幅はい二寸すん金剛杖こんごうつゑを右みぎにつま  
左ひだりの御手おんてに珠數じゆずを持樵夫山もちきこりやまかつ杣人そまびとも通かよふ  
道みちなき難所なんしよをば毒蛇鬼神どくぢやきトんを退しりぞけて貴賤老若きせんろうじやく



おしなへて通し玉ふぞ有難き凡四國の道の  
りは阿州は三十七里にて靈場二十三所あり  
土佐の札所は十六所八十五里と十五丁伊豫  
には靈場二十六里程は九十二里五丁讚岐は  
二十三所にて其道三十七里半國の境の道の

りと打戻りを加ふれば二百八十八とかや  
難所を巡る功德にて四百四病の畏なく八十  
八使の煩惱も一足づゝに消てゆく第一番に  
阿波の國靈山寺より切幡へ道は十里十ヶ所  
立江は四國の關所とて地藏菩薩は善惡の報



をしめす鰐の緒に纏ふ黒髪くろかみのちの世よの皆見みなみせ  
しめと知しられけり二十番ばんには來迎らいごうの瀧たきに不動ふどう  
の顯あらはれて信しんある者ものに見みへ給たまふ二十に一じゆういち番太ばんたい  
瀧寺世りようじよにも名高なだかき靈地れいちにて四國しこくの高野こうやと名な  
付つけたり虚空藏こくうざうぶんぢ聞持もんぢの法ほうにより大師だいししゆぎよう修行みぎりの砌

には惡龍障あくりようさばりなしければ天てんより寶劍飛ほうけんとび來きた  
り封ふうじ玉たまひし岩屋いわやあり今いまも靈水れいすい湧わき出いでて難なん  
病苦行ひやうくぎやうの輩ともがらと救すくひ給たまへる靈地れいちなり阿波あわと  
土州どしゆうの國境くにぎかい八阪やさかさ中難所なかなんじよにて八濱はま濱中はまなか又難またなん  
所飛石じよとびいしはね石いしころくくの石いしの數々かずかずふみ分わけて



二十四番ばんは東寺ひがしでら是法姓これほうしやうの室戸むろとにて大師修行だいししゆぎやう  
の御時おんときに毒蛇どくじやの障さわりありければ室戸むろとと聞きぞ我わが  
すめば有為ゆういの浪風立なみかぜたつなりと咏えいじて吐はし御唾おんつば  
は海うみに沈しづみて暗やみの夜よは夜光やこをの玉たまの如ごとくなり  
又またあしずりは七不思議ななふしぎ龍馬りゆうばの飼場かいはゆるぎ石いし

いすずの雨あめに地獄穴じごくあな汐満石しほみちいしにお龜かめさん泣石なきいし  
一夜いちやの鳥居石年とりゐ いしとしの元旦はじめの燈明とほしみは龍宮城りゆうぐうじやうより  
か、げけり三十九番さんじゅうきゅうばんの札所ふだしよには一寸八分すんぷの  
米こめもあり八十八の靈跡れいせきと米こめの淨土じよとと云いふぞ實げ  
に業病難病受ごうびやうなんびやううけし身みも飢死がしする者ものは更さらなほ四



十五番ばんは岩屋山いわやさん押分おしわけ岩いわに穴あな禪定ぜんじょう金のくさりかね

に雲梯くもはし登るのぼる縁えんしごの有ありがたき五十一番ばん石手寺いしてじ

衛門ゑもん三郎さんぶろうが前生ぜんしやうに大師たいしの加持かじを蒙りこうむて石いしを

握りにぎて命終みょうじうし河野かわのの御家おいへに生れうま來きて國主こくしゆと

なりてて寺てらを建たて石いしを納をさめし縁えんによりいして石手寺じ



とぞ號なづけたり七十番ばんの本山寺もとやまじ一夜やに建たてし  
本堂ほんどうも寸善尺魔すんぜんしやくまの天んじやと障さまたげをなして  
今いまの世よに野中のなかに柱はしらのこしけり八十四番ばんと五  
番ばんとば八栗八島やくくりやしまと稱しょうすなり八島やしまはしとの靈れい  
巖がんに文珠菩薩もんじゆぼさつの現あらはれて大師だいしへ護法ごほうの契ちぎりあ

り八栗やくくりは八ツの燒栗やきぐりに枝葉生えだはしやうじて實みを結むすび  
大師だいしの法徳現ほうとくあらはしぬ八十八番大窪寺醫王善ばんをくぼじいをせん  
逝せい薬師佛やくしふつ是打留これうちどめの御本尊衆病悉除ごほんぞんしゆびよしつしよを祈いのるか  
し大師だいし在世ざいせの仰をうせには一度巡拜ひとしゆんはいする者ものは無む  
始しの罪障ざいしやう消滅しやうめつし未來みらいを待またず此世このよから極ごく



樂界會らくかいゑに入る成なりと權化ごんげの方便ぼうべん數多かずおほき中なかにも  
邪見トやけんを戒いましめて喰くはずの芋いもに喰くはず貝がい喰くはずの栗くりの  
邊ほとりには年としに三度との栗くりもなる皆みな是これ善惡ぜんあく邪正じやしように  
て果報くはほうは心こころの種次たねし第だいいざりは車くるま盲目まぶもくの杖つゑを  
納をさむる靈驗れいけんは昔むかしも今いまもかはりなし七世ななせの父ふ

母ぼも苦くを免のがれ六親眷属しんけんぞくもろ共ともに二世せの求願ぐぐわん  
を満足まんぞくし花はなの臺うてなに至いたるとは偕さても尊とうとき御恩德おんごくとく  
仰あをいで深ふかく信しんず可べし南無大師遍照尊なむだいしへんじよそん

觀世音御和讚

歸命頂禮觀世音寂光無爲の都みやこより補ふ



陀洛淨土たらくじやうどに出現しゆつげんし苦海くかいの衆生しゆじやうを渡わたし給たまふ慈じ  
悲ひ万行まんぎやうの菩薩ぼさつ連だち其數そのかず限りなけれども大慈だいじ大  
悲ひの深ふかきこと觀音くわんをん薩埵さつたに如しくはなし三世さんせの諸しよ  
佛ぶつの慈悲じひ心を觀音くわんをん獨ひとり受接うけつぎて三十三さんじゅうさんに身み  
ぞわかち説法せつぽふりしやう利生りしやうの果はてもなし御名みなを唱となへて

頼たのみなば限りかぎ知られぬ後のちの世よの迷まよひの雲くもを  
拂はらひつゝ安養淨土あんやうじやうどに引接いんせうす惡業あくごうふき深ふかき罪人ざいにんは  
呵嘖かしやくの責せめに逢あふ時ときも只ただ因緣いんゑんを便たよりにて救すくは  
せ給たまふ御をんちかひ阿鼻焦熱あびしやうねつの焰ほのには泪なみたの隙ひまも  
無なきうちなに叫さけぶ聲こゑさへ盡つきぬれば誰たれを頼たのんで



脱のがるへきけふ今日のいんゑんあ因縁有るならばかたじけ忝なくもくわん觀  
世せをんむ音無間げんさんづ三途なかの中なかにててもかわ代りてくげん苦患うけたまを受給  
ふよわた世渡る業わざの其中そのなかにふ怖畏急難いきうなんの有るあるならば  
施せむい無畏いの御手をんてににをうなん横難はらをはら拂ちかいふ誓たいを唯ひひとりぼう亡  
難障なんざわりは多くともを一心いっしん歸命きみやうの朝あしたにはせいとくげ誓徳解

脱だつの日のひ護りまも便得利益べんとくりやくの月澄りつきすめ衆生しゆとやうの心種こころさま  
種くに願ねがの品しなは替かわれどもわがこ吾子わがこなるぞと給のたまひて  
憐あわれみ給たまふ有難ありがたき昔しやくざい在靈山れうざん名法華みやうほつげ今こんざい在西方さいほう  
阿彌陀佛あみだぶつ娑婆しやばに出いでてはくわんせをんさんせ觀世音くわんせをんさんせ三世利益りやくの御をん  
姿すかたいまこのしやう今いま此生このしやうにたの頼たのますなばみ永ながきみらい美來みらいと如何いかにせ



ん唯名たいなと聞きて信しんじなば空むなしくせじとの御誓をんちかい  
然しかれば高たかさも賤いやしきも童男どうなん童女どうによに至いたるまで念ねん念く  
疑うたがふ心こころなく一向ひとすじ稱名しやうみやう致いたすべし

七觀世音神呪くわんせをんじんしゆ

千手せんじゆ觀音くわんをんをんばさらたるまきりく

聖しやう觀くわん音をんおんありきやそわか

馬頭ばとう觀音くわんをんをんあみりとうどはんばうんは

つた

十一面とういちめん觀音くわんをんをんまかきやろにきやそわか

準じゆん提觀音ていくわんをんをんしやれいしゆれいじゆんて



いそわか

如意輪觀音にょいりんくわんをんをんはらたはんとめいうん

不空絹索觀音ふくけんさくくわんをんをんはんとまたらあほきやし

やていそろくそわか

南無大悲大悲观世音菩薩種々重罪五逆消滅なむだいじだいはくわんせをんぼさつしゆくぢゆざいごぎやくしよめつ

自他平等即身成佛じたびようびんそくしんぶつ

南無歸命頂禮本尊界會兩部大日遍照能家佛なむきみようとうらいほんぞんかいゑりよぶだいにちへんじやうのうけぶつ

母鎮護國家般若妙典法界等流大聖不動明王もちんごこくかはんにやみよでんぼうかいとうばだいしやうふどうみやうわう

四大八大諸大忿怒聖衆外金剛部金剛天等七しだいはちだいしよだいふんぬしやうしゆげこんごうぶこんごうてんとうしち

曜九曜二十八宿別而者高祖弘法大師護持弟ようくようしゆくべつしてはこうそこうぼうだいしごちで



子懺愧懺悔六根罪障消除業障

南無從本垂迹役優婆塞行者大菩薩大峯八大

金剛童子辨財天女孔雀明王熊野三所藏王大

權現箕面葛城等護法善神十二天藥及大將乃

至不現前一切三寶

南無法起大菩薩隨類示現利益衆生

南無從本垂迹和光同塵利益人天

本體盧遮那久遠成正覺爲度衆生故示現大明

神

南無本地實成釋迦如來和光同塵



南無大悲示現利益衆生行者神變大菩薩  
佛說聖不動經

爾の時に大會に。一りの明王あり。是の大明  
王は。大威力あり。大悲の徳の故に。青黒の  
形を現じ。大定の徳の故に。金剛石に坐し。

大智恵の故に。大火焰を現じ。大智の劍を執  
て。貪瞋癡を害し。三昧の索を持して。難伏  
の者を縛し無相法身。虚空同體なれば。其住  
處もなし。但衆生心想の中に住したまふ。衆  
生の意想。各々不同なれば。衆生の意に隨



て。利益りやくを作なし。所求しよぐ圓滿ゑんまんせしむ。爾その時ときに  
 大會だいいゑ。是經このきやうを説とくことと聞きて。皆大みなおほいに歡喜くわんぎし。  
 信受しんじゆして奉行ふぎやうしたてまつり  
 佛説聖不動經ぶつせつしやうふどうきやう

南無なむ三さん十六じうろく童子どうじ

矜迦羅童子こんがらどうじ 制吒迦童子せいたかどうじ 不動惠童子ふどうゑどうじ  
 光網勝童子くわうまうしようどうじ 無垢光童子むくくわうどうじ 計子你童子けいしにどうじ  
 智慧幢童子ちゑどうどうじ 質多羅童子しちたらどうじ 召請光童子てうしやうくわうどうじ  
 不思議童子ふしぎどうじ 囉多羅童子らたらどうじ 波羅波羅童子はらはらどうじ  
 伊醯羅童子いけいらどうじ 師子光童子ししこうどうじ 師子慧童子ししゑどうじ



阿婆羅底童子 持堅婆童子 利車毘童子

法挾護童子 因陀羅童子 大光明童子

小光明童子 佛守護童子 法守護童子

僧守護童子 金剛護童子 虛空護童子

虛空藏童子 寶藏護童子 吉祥妙童子

戒光慧童子 妙空藏童子 普香王童子

善你師童子 波利迦童子 烏婆計童子

聖無動の眷屬 三十六の童子 各千萬童を領

す 本誓悲願の故に 千萬億の惡鬼 行人

を燒亂せん時 此の童子の名を誦せば 皆



悉く退散し去らん 若し苦厄の難あらん

呪咀病患の者は 當に童子の號を呼べし

須臾して吉祥を得ん 恭敬禮拜する者の

左右を離れず 影の形に隨ふが如くに護り

長壽の益を獲得せん

南無歸命頂禮大日大聖不動明王四大八大  
諸忿怒尊

不動の劍文

一に金がら二にせいたか三にくりから四天  
が童子薬師に四社は不動そんかうべには白



蓮花れんげいたたき水波すいはの浪なみをたゝみかんまんだ  
いばんじやくをふみしづめうしろには大火だいか  
ゑんをかまへ左右さゆうには三十六童子さんじゅうろくどうじしゆとし  
たてまつるおもてにはたいかるゑんのふん  
のうのいとくをあらはせ内心ないしんにはあわれみ

ぞたれたもふ兩りやうがんに日月じつげつをみひらき口くち  
にはあうんの二字にじをふくみ兩りやうずいのきばに  
は天地和合てんちわがふとかみしめ御身をんみには九條くでうまんだ  
らのけさをかけさせ左ひだりの御手をんてには三さんぞう半はん  
の繩なわをたづさへ右みぎの御手をんてには利劍りけんをたづさ



へこのりけんにはいちくじよじん一々諸神こもらせたまふ  
きつさきはいわしみづしやうはちまんたいぼ石清水正八幡大菩薩焼劔はくり  
からふどうみやうわう不動明王つばの丸まるさは十五夜やの満月まんげつを  
ひやうすふちとかしらはいんやうの二ツふたせ  
つばはばきはあうんの二ツふた右みぎの柄つかぶし三十

三左ひだりの柄つかぶし三十三これ日本にっぽん六十余州ろくじうよしうの大だい  
小せうの神祇じんぎさめの小こかず天てんの末社まつしやこれさんびやくろく三百六  
十四じうよ神トんにひやうされたまふ中なかにもあらき一いち  
におやさめはよいの明星めうしやうよなかの明星めうしやうあけ  
の明星めうしやうとそあらさは大日だいにちだいしやうふどうみやうわう大聖不動明王



鞍馬大魔王尊和讚

歸命頂禮魔王尊御國を守り御誓願彌々深く  
在まして鞍馬の奥に栖給ふ其の源を尋ぬれ  
ば天つ神代の初めより吾此山に跡を垂衆生  
を濟度成し玉ふ天狗と例に化現して四魔降

伏忿怒身破邪顯正の御方便拆伏門とば示し  
けり魔障を退治の御姿は煩惱惡業調伏す忍  
辱慈悲御袈裟は衆生を憐む印しなり山より  
高く海よりも深き弘誓の因縁を恐れても尙  
惶れつゝ聊さか茲に尋ね見ん外つ國々はい



ぞしら知ず我わの日本ひのもとの昔むかしより名な高たかき山やまに住す玉たま  
ふあら荒てんぐき天狗つかさを主みづか宰まとり自みづから魔ま王わうと成なり玉たまひ  
ああくまらゆる惡魔がうぶくを降しんり伏りし眞理かなに叶そのみちへ其道ひとに人  
をみちびば導たまき給しやくぶくせうふなり拆ふんぬ伏しんじよしやう攝受ごうの忿怒ふんぬ身除障降しゆじやうさい  
魔まの頂上てうとやうの兜巾ごつぎんは五佛ごぶつの寶冠ほうかん戴いたけり衆生しゆじやうさい濟

度御姿おのみすがたは本地垂跡ほんぢすいしやく異ことなれば内うちには慈悲じひを秘かくし  
つそと、外そとには忿怒ふんぬを顯あらわせり左ひだりの御手をんてに鉾ほこを持も  
ち右みぎの御手をんての印明いんみやうは皇法わうほう佛法ぶつほう諸共しよもろともに護まもり玉たま  
へる印しるしなり背後うしろの鳥どりの兩翼れうよくは是これを自由じゆうじ自  
在ざいの御法ごほう徳御足とくみあしに磐石ばんじやく踏ふみ鎮しづめ如何いかな成なる天てん



魔まも障難さるがたき金剛堅固こんどうけんごの不動心ふどうしん天てん眼げん天てん耳じ宿命しゆくめい  
智ち神とん變べん威い德どく限りなき神通とんづう不思議しぎの力ちからにて衆しゆ  
生じやうを饒益ねうやく成なし玉たまふ有情うとやうを憐あわれむ神かみ々は其數そのかずあ  
また在ましませど如斯利益かるとりやくの迅速はやきこと此こゝの尊仰そんあふぐに  
如しくはなし一度信いちどしんする人ひとあれば如何いかな成なる難なん

知ちの業病ごうひやうも妙法めうほう加持かぢの力ちからにて即すなわち病やまひは平へい  
癒ゆす假令たとへま魔障まじやうの競きそひ來きて既すでに身命しんめいあやうき  
信心しんじん堅固けんごの利劍りけんにて忽たちまち災難さいなん切きり拂はらふ貧窮ひんきう  
困苦こんくに逼せまる身みも多聞たもん功德どくどくの無盡藏むじんざう檀波羅密だんぱらみつ  
の福德ふくどくを授さづけ給たまへる御誓願おんちがい短命たんめい無福ふくの其人そのひと



も祈いのれば壽命長久す子無なき人ひとには兒こを授さづけ  
愚をろか成なる身に智ちを授さづく賤いやさ身みにても信しんれば高かう  
貴きの位くらいに昇のぼるべし怖ふ畏い急難きふなんの災難さいなんも忽たちち救すく  
助ひを垂たれ給たまふ法眼ほうがん威神いじんの加持かぢ力りきに不思議ふしぎの  
利益りやく面當まのあたり授さづけ給たまへる感應かんのうは仲々なかく言葉ことばに述のべ

がたし信しん者トやむ護念ねんの夫それのみか善惡ぜんあく親疎しんその隔へだて  
無なく平等びうどう一味いちみの徳益とくやくを常つねに施ほし給たまふなり衆しゆ  
生じやうと視事みる子の如ごとく月日つきひの如ごとく明あきらかに無明むみやう  
の暗やみと照てらしつゝ有情うじやうを饒益ねうやくし玉たまへり如斯難かくあり  
有がたき御利益ごりやくを唯ただ一心いつしんに懺悔ざんげして疑うたふ心更こころさらに



無なく朝あさな夕ゆうなに念ねんすべし値遇ちぐうの縁えにし深ふかけれ  
ば念ねんする處ところを知しめし心こころの願ねがいとことぐく  
哀愍あいみんなうじゆなしたま  
哀愍納受成玉へ

南無護法大魔怒怒尊  
南無神變大菩薩眷屬衆

愛宕山あたご大郎坊ざんた 比良山ひら治郎坊やまぢ  
正じやう比叡山ひゑい法性坊ざんほうしやう 横川よこがわ覺海坊かくかいほう  
羅尼坊らに 日光山にっこう東光坊とうくわう 羽黑山はぐろ金光坊こんこう 妙みやう  
義山ぎさん日光坊にっこう 常陸ひたち築波法印つくばほういん 彦山ひこさん豊前坊せんぼう  
大原住吉おほはら吉釵坊よしつるぎ 越中えいちゆう立山たちやま繩垂坊じやうばう 天岩あまいわ船檀ふねだん



特坊 奈良大久杉坂坊 熊野大峯菊丈坊

吉野皆杉小櫻坊 那智瀧本前鬼坊 高野山

高林坊 新田山佐徳坊 鬼界嶋伽監坊 板

遠山頓鈍坊 宰府高垣高林坊 長門普明鬼

宿坊 津度冲普賢坊 黑眷屬金比羅坊 日

向尾畑新藏坊 醫王嶋光徳坊 紫黄山利久

坊 伯耆大仙清光坊 石鎚山法起坊 如意

ヶ嶽薬師坊 天満山三萬坊 嚴島三鬼坊

白髪山高積坊 秋葉山三尺坊 高雄内供奉

飲綱三郎 上野妙義坊 肥後阿闍梨 葛城



高天坊こうてんぼう

白峯相摸坊しらみねさかみぼう

高良山筑後坊こうれうざんちくごぼう

象頭ぞうづ

山金剛坊さんこんごうぼう

笠置山大僧正かさざきざんだいそうじやう

妙香山足立坊みやうこうざんあしだてぼう

御嶽山六石坊み たけざんろくせきぼう

浅間ヶ嶽金平坊あさま が たけこんへいぼう

惣じて日そを につ

本國中諸山大天狗小天狗來臨影向惡魔退散ほんこくちゆしよざんたいてんぐ しょうてんぐ らいりんようごうあくま たいさん

諸願成就悉地圓滿隨念擁護怨敵降仗一切成しよがんじよじうしつち ゑんまんすいねんをうご をんてきこうぶくいつさいじよ

就じうの加持かぢ

おんあろまなてんぐすまんきそわか

ねんひらくけんひらけんなうそわか

錫しやく狀しやう眞しん言ごんをんぞなうじたらたそわか

三部さんぶ總そう呪しゆをんあそばそわか



日にっ天てん尊そん せんあふちやそわか

月ぐわ天てん尊そん せんせんたらやそわか

三さん寶ぼう荒こう神じん せんけんばやけんばやそわか

水すい神じん せんばろたやそわか

烏う樞す瑟しま麼みやう明わう王わう せんくろたなうんじやく

毘び沙しや門もん天てん せんへいしらまんたやそわか

辨へ財さい天てん せんそらそばていゑいそわか

大だい黒こく天てん せんまかきやろやそわか

孔く雀じやく明みやう王わう せんまゆらぎらんていそわか

愛あい染せん明みやう王わう うんたきうんじやくうんしつ



諸しよ天てん神じんち  
をんろぎやくぎやらやそわ

八はち大だい龍りゆう王わうか  
をんめいきやくしやにゑいそわ  
か

滅めつ罪ざい咒しゆ  
りはりはていくかくかていた  
らぢていにぎやらりていびま  
りていそわか

無む病びやう延えん命のしゆ咒しゆ  
南なむ無こん金ごう剛けん堅こ固しよ勝えん會さん三ぶつ佛  
をんばざらゆせいそわか



破は地ち獄ごく生しょう佛ぶつ呪しゆをんはらまにそわか

父ふ母も生じよぶつ佛しゆ呪しゆをんはらしやらまにそわか

摩ま利り支し天てんおんまりしゑいそわか

役えんの行ぎやう者じやねんやくうばそくぎやくく

そわか

藏ぞう王わう權ごん現げんねんばざらくしやあらんじや

くうん

五ご體たい加か持と

夫それ清すめるは天てん性せい濁にごるは地ち性せい陰いん陽よう交まりて萬まん物ぶつ

と生せうず悉ことくく皆みな佛ぶつ性しやうあり故ゆゑに人じん倫りんを撰えらび身しん佛ぶつ



と成るこゝに八葉のうてななに大座だいざし二十八  
宿星しゆくせいを三界さんがいとす行者ぎよつやくし謹しんてうやまひ申まうす火ひ  
も焼くこと能あたはず水みづも多々消たすこと能あたはず  
刀兵とうひようも勝かつこと能あたはず壽とゆは百秋ひやくしゆを保たもち百壽ひやくじゆ  
秋あきを得頭えかしらは五智寶冠ごちほうかん大日如來だいにくらい髪かみは俱里伽羅くりから

大日大聖不動明王耳しんゑんばは身緣菩薩左の眼まつひたりは日まなこ  
天子右の眼てんしは月天子鼻まなこは藥師如來口やくしは地藏にょらいくち  
大菩薩左の手だいばは文殊菩薩右の手もんじゆばは普賢菩薩ふけんば  
左の足ひだりは正觀音菩薩右の足あしは勢至菩薩膝せいしは  
持地天肝の臟ぢいは降三世夜及明王心てんかんの臟ぞうは軍ぐん



だりやしやみやうわうはい  
茶利夜及明王肺の臟は大威徳夜及明王腎の  
ぞうこんぞうやしやきやうわうい  
臟は金剛夜及明王胃の臟は中央大日大聖不  
ぞうみやうわうそ しん しよんしよば さつぢゆ たま そ  
動明王其の心は諸神諸菩薩住し玉ふ其の徳  
こうく しよてんせんじんこんりんならく そこ  
廣々として諸天善神金輪奈落の底までも是  
と照し阿吽の息風となり衆生の苦み災を吹

き散し大智の劍の定規四方の趣意愚なる心  
ににして怨をなす者を拂ひ清め行者皆經燈し  
て佛神應護の加持を以て守護を頭に頂き怨  
敵諸々の障碍をなす者は皆悉く之を退散  
せしむなり



役行者和讃

敬禮し奉る熊野金峯山金胎兩部の諸薩埵  
因果定慧の曼荼羅は行者の出世に顯現す唯  
佛與佛の位にて互に主伴となり玉ふ自業に  
化他を先として専ら衆生を齊度せり月氏西

天たへなるも一念發起の縁により日域東土  
鑒がみて七生までに化生せり金杵を夢に見  
し人は行者の母儀と成玉ふ金剛不壞の御身  
にて誕生有ぞ目出たけれ竹馬に鞭を打つ時  
も螻蟻を踏も劬りき雲車に脂を差す時も降



雨も御衣ぎょういを濡うるさす悉達太子しつたたいしの發心ほつしんは十九生とうくしゆつ  
家けましくゝさ役行者ゑんぎやうじやの難行なんぎゆうは十七入峰じうしちにふぼうした  
まへり身體衣しんたいころものたちるには小篠をさうの露つゆの色いろと  
そめ枝葉しやうの扉明暮とばそあけくれにみねの嵐あらしも音信をとづれし坐禪ざぜん  
のゆかの紅葉こうやうと錦にしきのしとねとかさねしき岩いわ

屋やのうちの青苔あをきこけは翠みどりの座具ざぐとのべ敷しけり法起ほつき  
菩薩ぼさつと號がうしては葛木かつらぎ抖擻とすうに功こうをつみ役行者ゑんぎやうじや  
と稱しょうしては大峯をみねしゆぎやう修行しゆぎに身みと絞しばる捨惡持善しやあくぢぜんの  
意いにて惡鬼あくきもさたりて跪ひざまづく邪正じやしやう一如いちによの姿すがた  
にて山神袖さんじんそでをひるがへす三世さんせの諸佛しよぶつ隨喜ずいきし



て金剛童子こんがうどうじと成玉なりたまふ二上にしやうと藏王ざうわうもろともにに  
抖擻とすうのひとと憐愍れんみんす悲尊しそんの出世しゆつせに非あらざれば千ち  
墓むの石塔せきとうあらはれず現在げんざい入定にふぢやうしたまいて立りつ  
石仙人しやくせんじんあらたなり南山飛瀧なんざんひりやうの砌みざりには曠劫くわうかう化け  
生の機縁しやうきえんにて最初さいしよの行者きやうたやと成玉なりたまふ不動尊ふどうそんと

けんぐくす位くらいは十地じうちの菩薩ぼさつにて拔苦ばくし與樂よらくの  
指南しなんなり心こころと四海しかいに廻めぐらして濟生利物さいしやうりもつどんし尋伺しんごせ  
り箕面寺みのをてらには辯才べんさい天龍樹てんりうじゆと號がうする時ときもあり  
罪障懺悔ざいしやうざんげの靈地れいちにて貴賤きせんの市いちを常つねになす内ない  
證五智しやうごちの方更ほうべんは思量しりやうぶん分別べつべつをよばれず外用げようし四



弘こうの誓願せいがんは希代きたい未聞みもんの次第しだいなり既にすで鵝王がわうの  
未み來らい記きに金剛山こんがうせんをば載のせ給たまふ頗すこぶる鷲嶺しゆれいの西さい  
方ほうは菩提ぼだいの峯みねとは成なりにけり浪霞ざんが臥嵐ぐわらん百箇日ひやくかにかにち  
人跡じんせきたへたる峰續みねをつぎ難行なんぎやう苦行くぎやう三僧さんそう祇鳥ぎとりも音を  
せぬ山やまなれば清見原きよみはらの天皇てんわうも吉野よしのの奥おくに御み

幸ゆきして行者ぎやうしやの加護かごに酬こたへてぞ終つひには帝位ていゐに備そなは  
りき葛木山かつらぎざんの明神みやうじんは深谷しんこく不退ふたい鳴動めいどうす讒詫ざんたくめい迷めい  
暗あんつもりつ、果はたして自業じごふの苦輪くりんは飛瀧ひりやうの法ほふ  
水拜すいはいすれば碧落懸へきらくはるかに雨降あめくだりて嶺嵐れいらん波浪ろううと  
翻ひるがへし無始むしの罪垢ざいくを濯そくぐなり補陀ふだ落陀らくた所非しよあらざれ



ばしやうしんふしよ生身補處ぼさつの菩薩ぎやうじやなり行者もんじんの門人ものたる者は  
誰たれかかのあ彼地のぞに臨そもまあざる抑えんくう役ばの優波寒そくは大だい  
權薩ごんさつた垂けの化身しんにて實相じつさうしんによ眞如つぎの月つきすみて和光わくわう  
利物りもつの影清かげきよし超世てうせの悲願ひがんまし在あまみせば明神みやうじんぶつた佛陀だ  
も諸共もろどもに南山なんざん修業しゆぎやうを縁ゑんとして無上むじやうほ菩提だいを成なし

玉たまふ南無なむ大悲たいひ役行者やくぎやうじや大菩薩だいぼさつ



大正六年九月二十三日印刷  
大正六年九月二十八日發行

著者 高知縣高知市江ノ口町百六十四番地  
發行 渡邊 覺 治

印刷者 野 町 傳 次

販賣店 高知縣高知市江ノ口町百六十四番地  
渡邊 金水堂

名以すや事



終

